

製品リサイクル対策

企業・法人からの回収廃製品を対象に、2000年度末までにリサイクル率90%を達成するため、富士通りサイクルシステムにより回収・リサイクルに取り組んでいます。

回収・リサイクルの実績

富士通りサイクルシステムにおける1999年度の実績は、回収量が約10,652トン、そのうち廃製品が約7,900トン、リサイクルした部品・材料は約7,111トンであり、リサイクル率*は90%となりました。この90%は、1999年度目標を達成しているとともに2000年度末までの目標を1年前倒して達成しています。



中部リサイクルセンター

富士通りサイクルシステム

廃製品のリサイクル量を拡大するため、全国5ヶ所のリサイクルセンターにおいて「産業廃棄物処分量の許可」の取得を進めてきた結果、東日本リサイクルセンターの取得をもってすべて完了しました。国内の情報通信機器メーカーでは初めて、全国をカバーした物流ネットワーク(物流会社9社と提携)を1998年12月に構築しましたが、1999年度はさらに効率的な回収を行うため物流会社1社を追加し、計10社としました。

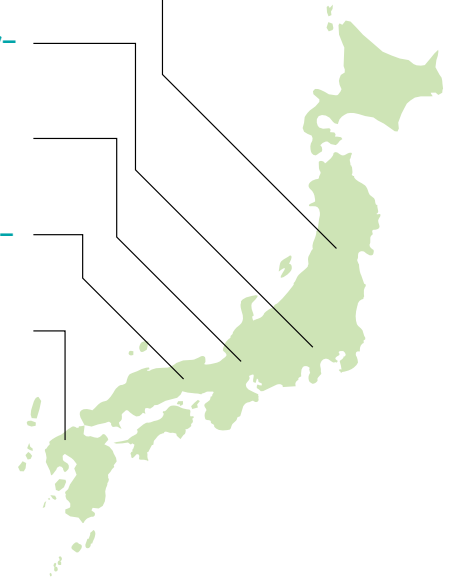
富士通東日本リサイクルセンター
(宮城県仙台市)

富士通首都圏リサイクルセンター
(神奈川県相模原市)

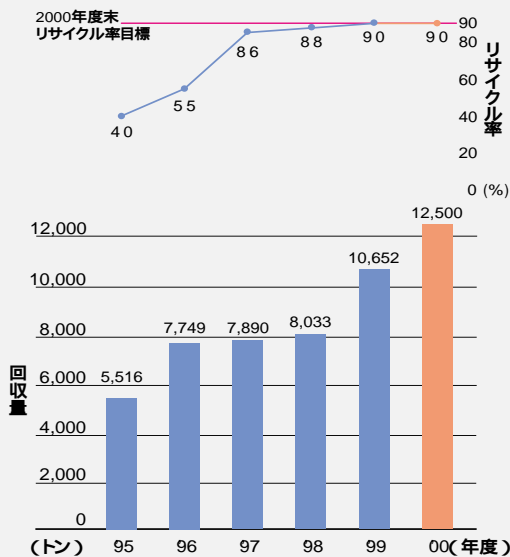
富士通中部リサイクルセンター
(岐阜県海津郡)

富士通西日本リサイクルセンター
(兵庫県加古川市)

富士通九州リサイクルセンター
(佐賀県鳥栖市)



回収量と廃製品のリサイクル率



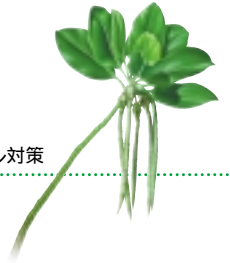
* リサイクル率 = $\frac{\text{リサイクルした部品・材料の重量}}{\text{廃製品の処理量}}$

主な実施内容

新規リユース部品種類の拡大: 38 43種(社内)
廃製品の解体マニュアルの整備: 16機種(累計69機種)

リサイクルセンターの「産業廃棄物処理業の許可」取得状況

九州リサイクルセンター	1998年 6月	許可番号第4123054477号
首都圏リサイクルセンター	1998年 6月	許可番号第1422028930号
西日本リサイクルセンター	1998年 8月	許可番号第2824047575号
中部リサイクルセンター	1998年 9月	許可番号第2120053003号
東日本リサイクルセンター	2000年 1月	許可番号第5422028930号



富士通首都圏リサイクルセンター長ごあいさつ

全国5カ所あるリサイクルセンターの中で最も早い1995年4月に稼働した富士通首都圏リサイクルセンターでは、情報機器全般および通信機器のリサイクル事業を展開しています。1999年度のリサイクル量は約2,480トンに達しています。これからも、信頼ある対応と高度な技術でリサイクル事業を推進し、地球環境保全に努めてまいります。

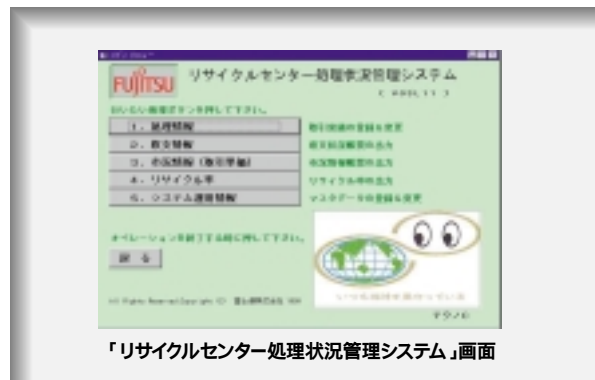
富士通首都圏リサイクルセンター長 鈴木 喜代晴



「リサイクルセンター処理状況管理システム」の運用と開発

全国5ヶ所のリサイクルセンターとリサイクルテクノセンター(川崎工場内)をオンライン化したシステムを1999年4月から運用し、富士通リサイクルシステムの管理の効率化を進めています。

このシステムは、富士通リサイクルシステムでの回収量・種類、廃棄物処理量・種類、リサイクル率などを一元管理するものです。なお、毎日の処理状況を集計できるようにシステムの強化を図りました。

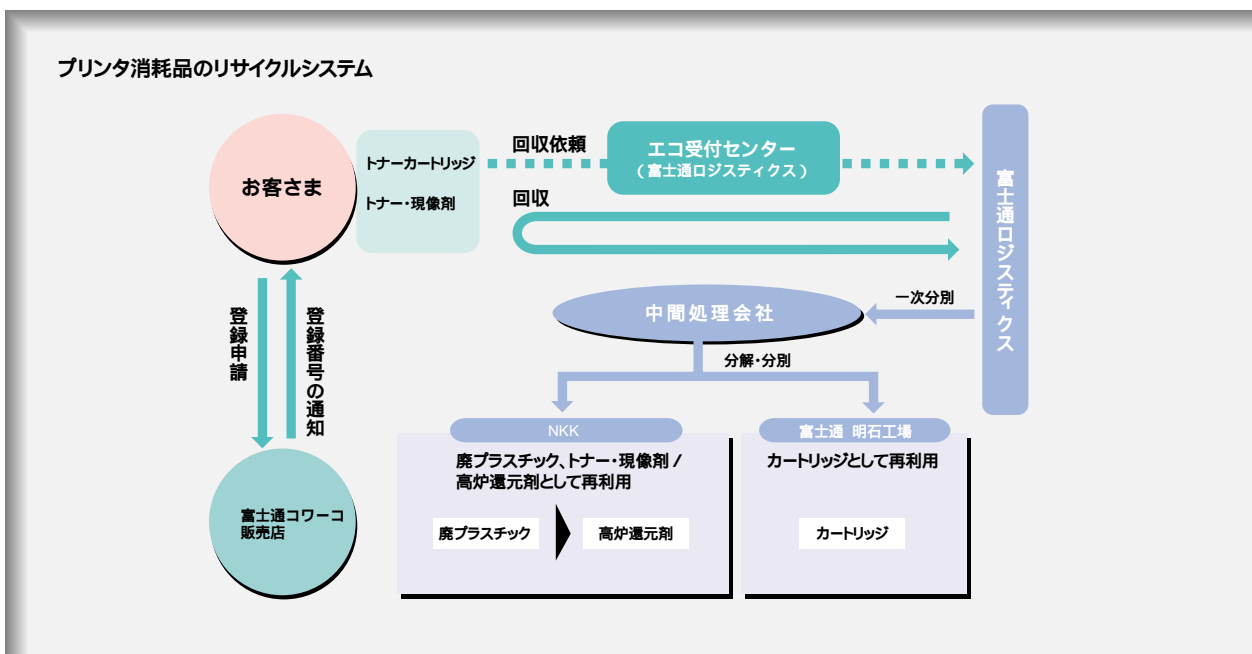


「リサイクルセンター処理状況管理システム」画面

プリンタ消耗品のリサイクルシステム

富士通と富士通コーポは、企業・法人向け富士通製全レーザー・プリンタの使用済み消耗品(トナーカートリッジ、トナー・現像剤)を対象とした、回収およびリサイクルの

システムを構築し、運用を開始しました。トナーカートリッジは、検査・清掃後、工場に戻し再生品として再利用しています。



2000年度の主な実施計画

家庭からの廃パソコン回収システムの構築